

解 读

日本与日本人

にほん & にほんじん

刘金钊 / 编著

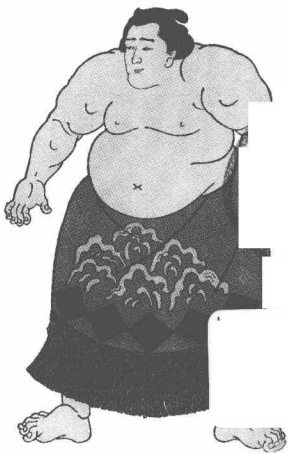
我清楚地知道，面对国人论日本人，如果失去立场，就会有为日本人涂脂抹粉之嫌。难免引起非议甚至众怒。为数不少的国人因为历史等问题已经对日本人形成了固定看法。我的一些朋友常开玩笑地对我说，学什么不好？非学日语！亲日派吧？听得出出来。其言外之意似乎是因为学日语，我也无幸受到牵连。可以理解，我们对无端蒙受那段悲惨历史实在是刻骨铭心！我常常耐心地对他们解释说，我不是亲日派，也不是反日派，争取做个知日派吧。既然学了日语，就应该为中日交流作点儿贡献。



解
读

日
本
人

刘金钊／编著
にほん
とにほんじん



大连出版社

© 刘金钊 2009

图书在版编目(CIP)数据

解读日本与日本人/刘金钊编著. —大连:大连出版社,2009.8

ISBN 978-7-80684-790-9

I. 解… II. 刘… III. ①民族性—研究—日本 ②文化—研究—日本 IV. C955.313 G131.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 129300 号

出 版 人:刘明辉

策划编辑:李 岩

责任编辑:李 岩 卢 锋 张 岚

封面设计:林 洋

版式设计:刘振奎

责任校对:王玉珊

责任印制:徐丽红

出版发行者:大连出版社

地址:大连市西岗区长白街 10 号

邮编:116011

电话:0411-83624487/83621147

传真:0411-83610391

<http://www.dlcbs.com>

E-mail:ly1199@sohu.com

印 刷 者:大连金华光彩色印刷有限公司

经 销 者:各地新华书店

幅 面 尺 寸:170mm×230mm

印 张:23

字 数:460 千字

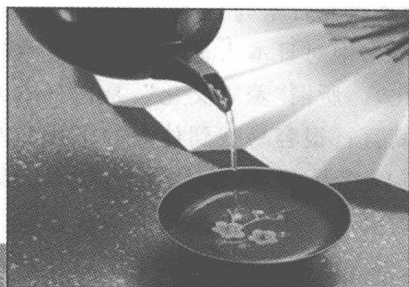
出 版 时 间:2009 年 8 月第 1 版

印 刷 时 间:2009 年 8 月第 1 次印刷

印 数:1~3000 册

书 号:ISBN 978-7-80684-790-9

定 价:39.00 元



前言

はじめに

我清楚地知道,面对国人论日本人,如果失去“立场”,就会有为日本人涂脂抹粉之嫌,难免引起非议甚至众怒。为数不少的国人因为历史等问题已经对日本人形成了固定看法,我的一些朋友常开玩笑地对我说:“学什么不好?非学日语!亲日派吧?”听得出来,其言外之意似乎是因为学日语,我也无辜受到牵连。可以理解,我们对无端蒙受的那段悲惨历史实在是刻骨铭心!我常常耐心地对他们解释说:“我不是亲日派,也不是反日派,争取做个知日派吧。既然学了日语,就应该为中日交流作点儿贡献。”

其实道理非常简单,借用江泽民总书记的一句话“以史为鉴,放眼未来”。这是江泽民总书记作为国家最高领导人于1998年11月25日至30日首次访问日本时,在早稻田大学的演讲题目。我当时在驻日使馆工作,有幸现场聆听,受益匪浅,至今仍记忆犹新。“牢记历史,不忘国耻,并且为了亚洲乃至世界的和平稳定、为了我国的繁荣昌盛,放眼未来就是识大体、顾大局”是我国对日本的基本外交原则。胡锦涛主席在早稻田大学演讲时说得好:“我们强调牢记历史并不是要延续仇恨,而是要以史为鉴,面向未来,珍爱和平,维护和平,让中日两国人民世代友好下去,让各国人民永享太平。”

在学习外语这个问题上,我们存在一个错误倾向,一般是和哪个国家关系好就一窝蜂地学习哪个国家的语言。二十世纪60年代,我们称苏联为“老大哥”,当时举国上下学俄语。说起来我也是学俄语出身,上了大学才盲目地学了日语。还是周恩来总理站得高、看得远,早在1964年,我们和日本还没有建立外交关系的时候,就提出了创办大连日语专科学校,培养了大批对日交流人才。今天的大连外国语学院,已经是国内外闻名的日语教育基地。试想,如果没有当时的大连日语专科学校,怎么会有今天的大连外国语学院呢?

学日语的人一般都知道《菊花与刀》这本书,此书是由美国人类文化学者鲁

思·本尼迪克特于1946年撰写出版的。这本书在日本一经翻译出版,立即受到日本人的广泛关注,一度成为畅销书。此书被称为是研究日本与日本人的精辟论著,至今仍陈列在日本大大小小的书店内。她在这本书中对日本人进行了淋漓尽致的分析,并把日本文化概括为「恥の文化」(羞耻文化)。所谓“羞耻文化”,是指日本人喜欢来自外界的评论,并且很在意外界的评价,其言行很容易受到他人的干扰和左右。有例为证,凡是去过日本的外国人都有这样的感受,踏上日本国土,日本人除了礼节性的寒暄以外,经常会问:「日本の印象は?」(对日本的印象如何?)、「日本人をどう思うか?」(对日本人怎么看?)、「刺身が食べられますか。」(能吃生鱼片吗?)等等。可见,喜欢外来的评论是日本民族的一个显著特点,有日本学者将其归纳为「他律指向(たりつしこう)」,意思是说日本人很容易受到他人的影响和左右,有效仿他人的特点。

古往今来,日本国内外关于日本国民性的研究十分盛行。在日本国内,自近代以来,著名的学者及论著有:福泽谕吉的『文明論之概論』、西周の『国民気質論』、志贺重昂の『日本風景論』、三宅雪零の『真善美日本人』『偽悪醜日本人』、芳贺矢一の『国民性十論』、井上哲次郎の『国民道德概論』、野田义夫の『日本国民性の研究』、九鬼周造の『「いき」の構造』、和辻哲郎の『風土』等等。战后至今,在学术界影响较大的有:村冈典嗣の『日本国民性の精神史的研究』『日本精神を論ず』、梅卓忠夫の『文明の生態史観』、中根千枝の『タテ社会の人間関係』、土居健郎の『「甘え」の構造』、南博の『日本人論』等等。国外学者的论著其数量也相当可观,令人瞩目。上面提到的鲁思·本尼迪克特的《菊花与刀》,堪称经典名著。另有,李御宁の『「縮み」志向の日本人』、孔健の『日本人との付き合い方』等等,不胜枚举。

在我国国内,虽然学日语的人数仅次于韩国,居世界第二位,日语教师队伍也很庞大,但关于日本与日本人的研究,却很少有人问津,相关论著更是凤毛麟角。在中日两国交往日益频繁的今天,如此不毛之现状不能不说是一个很大的缺憾。在日本,对中国人的褒贬暂且不论,关于「中国人とは何者か。」(中国人是何许人也?)之类的书刊为数相当可观,尽管有的缺乏客观性,但日本人对中国与中国人的研究却很盛行。

改革开放以来,我们和日本的交流日益广泛,其中最令人瞩目的是,成百万留学大军高举“学习日本的先进科学技术和科学管理经验”的旗帜,东渡日本,形成了历史上的第三次留日热潮。各行各业的领导人士、技术人员也频繁进行访问考察、招商引资等等,可谓往来不断。在中国,日资企业数以万计,主要集中在北京、上海、大连等地。如此近似于零距离的频繁接触,如果互不了解其文化特点和思维方式,必然会导致话不投机、商谈不果、事倍功半。事实上,长期生活在日本的中国人虽然持有定居的签证,甚至入籍之后更名改姓,但时至今日,仍为和日本人“格格不



人”而感到苦恼。日语专业的毕业生进入日资企业后,时常心神不安,游离不定,试着换了几家之后,最后谈起感受,就是干干脆脆的三个字“不开心”。

我们常常高喊:“要学习日本的科学管理经验!”确实,日本只用了几十年的时间,经济便跃居世界前列,其在企业经营管理方面必有奥妙,这点早已引起各国经济、经营学者的广泛关注,并得出了基本定论。日本企业经营的三大法宝,经研究被认为是“终身雇佣”、“论资排辈”和“优厚的福利待遇”。对于这些,我们好像是研究不够,知之甚少。比如:国企改革,我觉得问题主要在于经营管理,本来靠自己应该可以做好,绝不能说和国外合资是唯一出路!难道我们就没有自己的办法了吗?这些年,我们总结来总结去,好像经济上不去的主要原因就是因为“大锅饭”,说人家外国人都靠竞争吃饭,所以我们为了打破“大锅饭”,就来了个180度大转弯,大力倡导引进竞争机制、实行竞聘上岗、实行合同制等等。对此,我并非持反对态度,只是有些担心,但愿是“杞人忧天”吧!我总在想,竞争需要有严格的规则,比如百米比赛不仅有电子起跑器的监控,还可以做药物检查。而这种摸不着、看不见的竞争,如果规则不明、人为因素过多,那么,会不会引起人心混乱呢?事实上,不能说没有这样的苗头。到底是应该提倡配合还是应该强调竞争?对比日本,很显然日本是重视前者。当然,学习外国的经验要结合我们的国情、民情,需要认真思考、研究,这方面我们做得还不太够。

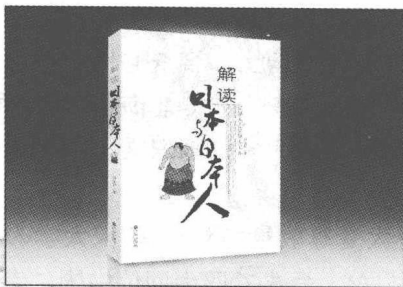
日本民族是个性很强的民族,有共同的思维和行为方式,为了与日本人得体地交往,实现互惠双赢,我认为对其大有研究之必要。

写一本关于日本人的书,是我多年的夙愿,也想以此作为我一生从事日语教育和研究工作的归纳和总结。动笔之前,曾反复考虑是用日语还是用中文撰写的问题,考虑到和日本人交往已不仅仅限于日语界的业内人士,所以选定了中文。书中难免会出现日语词句,将随处在篇中注释、标明。

写这样一本书,对我来说算是孩童学步,好在我有多年教授日语和指导硕士研究生的经验,有在中国驻日本使馆工作的经历,这次又受聘在日本武藏野学院大学做研究生院的专任教授,积累了一些理性和感性的认识,所以才敢斗胆提笔,良莠与否任凭世人评说,只要能给广大读者一些有益的启迪,也算是了却了我的一份心愿。

刘金钢

2009年6月
于日本狭山市



推 荐

推薦の言葉

劉金釗教授は、現在武蔵野学院大学で中国事情、日中交渉史等を担当している主力教授でおられる。

劉教授は、大連外国語大学で永年教鞭を執られ、数々の要職を経験なさった後、ご縁があり本学に移籍された。本学でも留学生への日本語指導や、日本人学生への中国理解の指導に邁進していらっしゃる。

本書は、読者もお分かりのように、劉教授のそのような永年のご経験とご見識の「集大成」とも呼べる一冊である。読者の日本人理解への手助けだけでなく、豊富なデータに裏付けられた日本理解や日本人と中国人の気質の比較に加えて、日中交流にまで話題が及んでいる。

日本及び日本人は、長い歴史の中で中国及び中国人から沢山のことを吸収してきた。しかし、大陸の大国である中国と、海洋の島国である日本では、その消化や表現や歴史は全く異なるアプローチをしてきたのである。

しかし時代は、経済等で成功を先に収めた日本と、これから世界で大きな役割を果たす中国が、お互いの理解を深めて、世界の人々の為に貢献し提供することを求めている。この現代の時代に、中国の友人であるあなたが、日本や日本人を真っ直ぐに理解して、善隣友好を多面的に深めることが、どれだけ価値の高いことであるかは論を待たない。

私の先祖は1800年前に当時の皇后から指導されて朝鮮半島等を訪れている。また、本学の先々代である私の祖父は、70数年前に当時の日本の状況に抵抗して旧満州(中国の東北地方)で、中国人と日本人の友好の為の運動をした活動家でもあった。祖父はその後中国の友人達との友好の為に日本で卓球を普及させたり、戦争後に最も早く中国語の授業を日本で再開した。

そのような歴史を持つ本学や私は、中国の方々に受け入れていただき、沢山の中国人の友人を持ち、中国を愛している。

その本学の教授である劉金釗先生の書かれたこの一冊が、日本と中国のこれからの新しく深い関係の手助けとなることを、心から願って已まない。

日本武蔵野学院大学 学長・教授
高橋 暢雄

私は三十年近く、四百年の伝統のある駒沢大学の法学部や大学院の教授でした。「日本法制史」や「日本文化論」を講じていました。博士の審査も何人かしました。一九九八年より四年間苫小牧市政府と駒沢大学の合作で北海道に苫小牧駒沢大学を新設し、その初代学長をやりましたが、その大学は国際文化学部でありましたので、国際交流や交流協定大学で多くの協力を得ました。

私は日本文化や日本人の源流である中国を大変尊敬しており、駒沢大学のゼミ生も一緒に毎年中国に研修旅行をしていました。今まで四十回位中国に参っています。苫小牧市と姉妹都市の中国・秦皇島市政府より「名誉市民」の称号をいただきました。その頃、第一に交流した大学が大連外国語学院で、その日本語学院副院長の劉金釗先生とお知り合いになり、留学生や日本文化、中国文化の研究等を通じて劉先生とは大変親しく御交誼いただいています。

二〇〇四年四月、私は新たに武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部の創設に加わり、副学長、学部長になりました。早速劉先生を中国文化や日中交流の教授として御招聘いたしました。

二〇〇七年四月よりは私が研究科長の大学院教授も御担当いただいております。

武蔵野学院大学大学院は定員十名の国際コミュニケーション専攻の小さな大学院ではありますが、学院の歴史は百年近くあり、優秀な教師陣です。中国よりの優秀な留学生も多く、約90%位は中国の方が在籍しています。

長い間、日中文化交流にご尽力くださり、「日本文化」を深く研究され、また、長い間日本にも滞在され、多くの日本人とお付き合いいただいた劉先生がこの度、「日本文化」や「日本人の特色」等に関する学術書を中国語で公刊されることは真に御同慶の至りであります。

そのレベルの高さは申すまでもありませんが、日中友好に、特に中国よりの留学生に中国語で書かれている日本文化、日本人論をまず勉強された上で、日本語による大学の講義を聞かれることはその効果も大であると思われます。この書物を通じて子々孫々日中友好増進と世界永久平和共存共栄を祈念いたすものであります。

日本武蔵野学院大学大学院 教授
副学長・研究科長
大久保 治男



『解説日本と日本人』を執筆された劉金釗教授とは、同じ大学に所属し、大学院生の研究指導を共に協力しながら日中文化の発展に寄与しようと研鑽を深めている仲である。日本にも長く居住し、文献で研究を深化させると同時に、実際に日本各地を旅し、体験を基底に置きながら真摯に研究に努力されている。

今回纏められた著作は、中国人で日本を理解したいと考えている大学生や社会人で日本と何らかの関係を持ってビジネスを行っている人に是非読んでもらいたい内容である。本著はコンパクトに要領よく日本社会文化を概説し、日本人の国民性を見事に言い当てており、日本人が読んで改めて日本を再認識する内容となっている。

日中関係が、今後 21 世紀の世界の政治や経済を動かす重要なテーマになっている今日、『解説日本と日本人』の著作はより確かな日本理解となる道標となるであろう。是非、一読を勧める所以である。

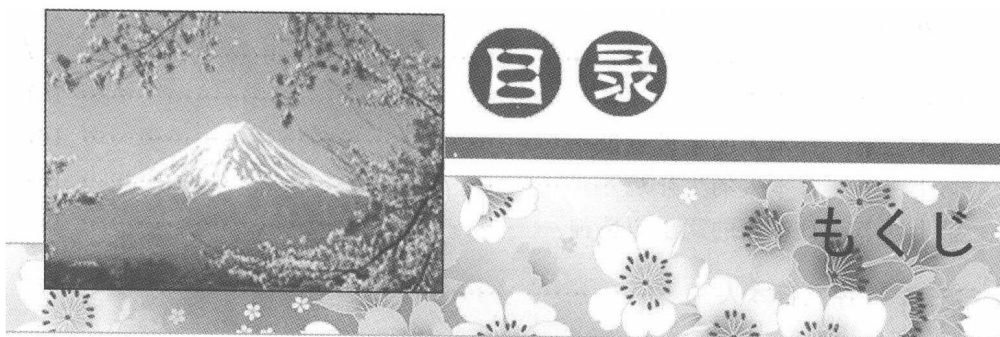
日本武蔵野学院大学大学院 教授
武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部 学部長
林 猛

劉金釗教授が執筆された『解説日本と日本人』は、島国である日本の土壌で日本民族が如何に育ち、如何にアジアでの関わりを演じてきたかについて通時的にも共時的にも分かりやすく解き明かした名著である。

まず日本の地理的概況の説明から始まり、日本及び日本人の起源について述べられ、そこに育んだ日本文化を背景とする今日の日本企業の経営・管理に関する鋭いご指摘は見事である。また、日本人の格式尊重の風習の中で自然観に基づく美德や宗教観に支えられた生死観と武士道精神が育まれた様子もよく分かる。更に日本人の特色として潔白さの強さから融通性の乏しさを指摘され、挙げ句の果てには曖昧さと拘りの強さを生じ、遂に自尊心を強く持たざるを得ないことに至るなど、実に繊細なご指摘には感服する。

中国と日本とは古代から現代に至る、相互の融和的発展の基盤に立って、今後更に両国の輝かしい飛躍発展が期待されることで纏められた好著である。

日本明海大学 名誉教授
武蔵野学院大学大学院 教授
谷光 忠彦



第一章 概观日本与日本人	1
第一节 日本概况	3
第二节 日本都道府县概况及特点	25
第三节 日本的“三大之最”	55
第四节 日本国的起源	63
第五节 日本人的起源	65
第六节 日语的起源	67
第七节 日本文化的主要特点	69
第八节 日本人的国民性	72
第九节 日本企业经营管理的文化特征	76
第十节 日本文化点描	81
第十一节 从世界水平看日本	87
第十二节 创建日本的十大功臣	106
第二章 日本人的表征	111
第一节 从表征看日本人的主要性格	113
第二节 从地区看日本人的不同性格	117
第三节 格式化的日本人	132
第四节 日本人的集团主义和“和为贵”意识	137
第五节 日本人的竞争意识	139
第六节 日本人的人情观	142
第七节 日本人的“权者顺从”意识	147

第八节	日本人的距离意识	150
第九节	日本人的自然观	153
第十节	日本人的审美意识	157
第十一节	日本人的美德	161
第十二节	日本人的宗教意识	167
第十三节	日本人的生死观	169
第十四节	日本人的武士道精神	172
第三章	探究日本人	175
第一节	为什么日本人与人交谈时不正视对方	177
第二节	为什么日本人交谈时不喜欢和对方靠近	178
第三节	为什么彬彬有礼的日本人去国外旅行时一反常态	180
第四节	为什么日本人车上不让座	182
第五节	为什么日本人不能通融	183
第六节	为什么日本人喜欢暧昧	185
第七节	为什么日本人拘泥于礼节	187
第八节	为什么日本男士下班后不按时回家	189
第九节	为什么日本人决定事情要花费大量时间	190
第十节	为什么日本人决定的事情很难改变	193
第十一节	为什么日本人自尊心强	194
第十二节	为什么日本人视顾客为上帝	197
第十三节	为什么日本上司经常厉声训斥部下	200
第十四节	为什么日本上司关心部下的私生活	202
第四章	日本人 PK 中国人	205
第一节	“急躁”PK“沉稳”	207
第二节	“含蓄”PK“直率”	208
第三节	“冷漠”PK“热情”	209
第四节	“单纯”PK“复杂”	211
第五节	“死板”PK“灵活”	212
第六节	“小气”PK“大度”	213
第七节	“保守”PK“开放”	214
第八节	“理性”PK“感性”	215
第九节	“紧张”PK“放松”	216

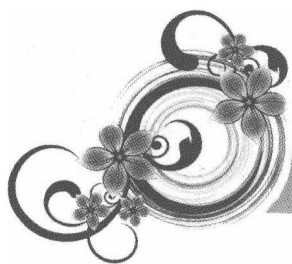


第十节 “和”PK“斗”	217
第十一节 “文化型”PK“政治型”	218
第十二节 日本人和中国人的主要特点	220
第五章 中日交流的昨天·今天·明天	223
第一节 中日交流的历史	225
第二节 中日邦交正常化以来中日关系年表	231
第三节 中日邦交正常化以来两国领导人互访	246
第四节 日本政府对华援助概况	248
第五节 中日关系重要文献	251
第六节 中日贸易关系年表	253
第七节 中日贸易现状	257
第八节 日资企业在中国	261
第九节 日资企业的中国员工的工资概况	264
第十节 中日留学生交流的历史与现状	267
第十一节 从数字看中日关系	272
第十二节 从民意调查看当前中日关系	275
第十三节 中日关系的现状与展望	281
第六章 中日交流最重要的历史见证	291
一、《中华人民共和国政府和日本国政府的联合声明》	293
二、《中华人民共和国和日本国和平友好条约》	295
三、《中日关于建立致力于和平与发展的友好合作伙伴关系的联合宣言》	298
四、《中日关于全面推进战略互惠关系的联合声明》	303
五、温家宝总理在日本国会的演讲《为了友谊与合作》	308
六、福田康夫首相访华演讲《共创未来》	319
七、胡锦涛主席在日本早稻田大学的演讲	336
八、麻生太郎首相在纪念中日和平友好条约缔结 30 周年招待会上的致辞 《我对日中关系的信念》	348
参考文献	353

第一章



概观日本与日本人



第一节

日本概况

► 1. 国名、国旗、国徽、国歌、国花、首都

【国名】「日本国」(日本国),「日」指太阳,「本」在日语里是“起源、出处”的意思,其含义是“日出的国家”。

【国旗】「日の丸」(太阳旗),呈长方形,长与宽之比为 3 : 2,白色旗面,正中印有一轮红日。

【国徽】圆形,16 瓣黄色菊花图案。菊花是日本皇室的象征。

【国歌】「君が代」(君之代)。

【国花】「桜」(樱花)。

【首都】「東京」(东京)。

► 2. 人口、人口密度、日本人的寿命、百岁以上高龄人口

【人口】

日本总人口 127,288,419 人(2008 年统计)。在中国、印度、美国、印度尼西亚、巴西、俄罗斯、巴基斯坦之后,居世界第 8 位。其中,男性 6,234 万人,女性 6,541 万人。日本总务省于 2007 年 9 月 17 日——“敬老日”,公布了高龄人口数,截止到 2007 年 9 月 15 日,65 岁以上的高龄人口为 2,744 万人,占总人口的 21.5%。在 65 岁以上的高龄人口中,男性 1,169 万人,占男性总人口的 18.8%,女性 1,575 万人,占女性总人口的 24.1%,女性比男性多 406 万人。

65 岁以上的高龄人口中,65 岁—75 岁的高龄人口为 1,475 万人,占总人口的 11.5%。75 岁以上的高龄人口为 1,269 万人,占总人口的 9.9%。

15 岁以下的少年人口为 1,738 万人,占总人口的 13.6%。其中,男性 891 万人,女性 847 万人。幼儿(0 岁—5 岁)664 万人,小学生(6 岁—11 岁)712 万人,中学生(12 岁—15 岁)362 万人。

近年来,出现了老年人口逐年递增、少年人口逐年递减的趋势,这已成为日本的一大社会问题。根据 1997 年的调查,日本每个女性一生中生育子女的平均数已从 1973 年的 2.13 人下降到了 1997 年的 1.39 人。按照 1997 年的统计进行推算,2009 年日本人口将达到最高峰,此后随着婴儿出生率的下降,人口总数将逐渐减少。到 2015 年,65 岁以上的高龄人口比例将超过总人口的 25%,这就意味着每 4 个人当中就会有 1 个 65 岁以上的高龄老人。

【人口密度】

每平方公里约 337 人。

【日本人的寿命】

日本是世界长寿国家之一。男性平均寿命 78.53 岁,居世界第 5 位。女性平均寿命 85.49 岁,居世界第 1 位。

【百岁以上高龄人口】

据日本厚生劳动省 2007 年度的调查结果显示,日本全国百岁以上的高龄人口数为 32,295 人。其中,女性 27,682 人,占百岁以上的高龄老人总数的 80% 以上。按地区排列,冲绳县居第 1 位,有 5,789 人;高知县居第 2 位,有 5,298 人;岛根县名列第 3 位,有 5,102 人。

► 3. 自然地理

日本是狭长的岛国,四面环海,国土面积为 377,835 平方公里。位于太平洋西侧,西隔东海、黄海、朝鲜海峡、日本海,与中国、朝鲜、韩国和俄罗斯隔海相望。

日本国土由北海道、本州、四国、九州 4 个大岛和 6,800 多个小岛构成,海岸线长达 3 万多公里,山地和丘陵占国土总面积的 71%。

全国共有 160 多座火山,其中 50 多座是活火山,是世界上地震多发地带。富士山是全国的最高峰,海拔 3,776 米。境内的河流流程短,流势较急。最长的河流是信浓川,全长 367 公里。最大的湖泊是琵琶湖,面积为 670.3 平方公里。因为日本地处海洋包围之中,属于温带海洋性气候,夏秋两季多台风,6 月份多雨,“梅雨季节”长达两个月之久。

① 海拔 3,000 米以上的山脉主要有:



山名	高度(米)	所在地
富士山(ふじさん)	3,776	山梨、静岡
北岳(きただけ)	3,193	山梨
奥穂高岳(おくほたかだけ)	3,190	長野、岐阜
间之岳(あいのみだけ)	3,189	山梨、静岡
枪岳(やりがだけ)	3,180	長野
东岳(ひがしだけ)	3,141	静岡
赤石岳(あかいしだけ)	3,120	長野、静岡

日本共有 21 座山脉,主要集中在山梨县和静冈县。

② 面积 20 平方公里以上的湖泊主要有:

湖泊名	面积(平方公里)	最大深度(米)	所在地
琵琶湖(びわこ)	670.3	103.8	滋贺
霞 浦(かすみがうら)	167.6	7.1	茨城
猿洞湖(さろまこ)	151.8	19.6	北海道
猪苗代湖(いなわしろこ)	103.3	93.5	福島
中 海(なかうみ)	86.2	17.1	鸟取、岛根
屈斜路湖(くっしゃろこ)	79.6	117.5	北海道
洞爷湖(とうやこ)	70.7	179.7	北海道
十和田湖(とわだこ)	61.0	327.0	青森、秋田

日本共有 20 多个湖泊。

③ 流域面积 1,500 平方公里以上的河川主要有:

河川名	流域面积(平方公里)	全长(公里)	流经地
利根川(とねがわ)	16,842	322	福島、新潟
石狩川(いしかりがわ)	14,330	268	北海道
阿贺野川(あがのがわ)	13,761	210	福島、新潟
信浓川(しなのがわ)	12,579	367	新潟、長野
北上川(きたかみがわ)	10,150	249	岩手、宫城